

TV TOKYO Corporation

digital

デジタル・セブン 2009年冬号

42
interim

Winter 2009

●特集 カンブリア宮殿

村上龍 × 経済人

「ニュースが伝えないニッポン経済」



第42期 中間報告書
2009.4.1~2009.9.30

Contents

2010年3月期 第2四半期 連結財務ハイライト Financial Highlights	1
株主の皆様へ To Our Stakeholders	2
事業概況 Update	4
特集「カンブリア宮殿」 Special Feature	7
新春ワイド時代劇「柳生武芸帳」 Topics	9
テレビ東京のCSR活動 CSR Information	10
財務データ (2010年3月期 第2四半期決算) Financial Data	11
会社情報 Corporate Information	12
株式情報 Stock Information	14



株式会社テレビ東京

Financial Highlights



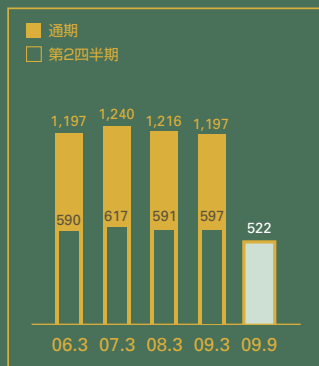
2010年3月期 第2四半期連結財務ハイライト(2009.4.1~2009.9.30)

2010年3月期 第2四半期 実績(累計)

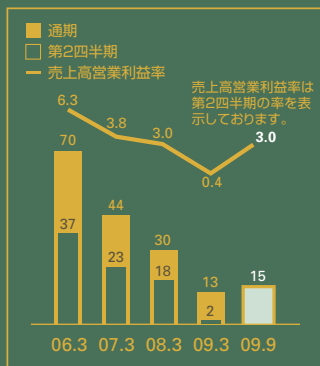
前年同期比

売上高	522 億 30 百万円	12.5 % 減
営業利益	15 億 60 百万円	506.0 % 増
経常利益	16 億 77 百万円	486.6 % 増
四半期純利益	10 億 1 百万円	—

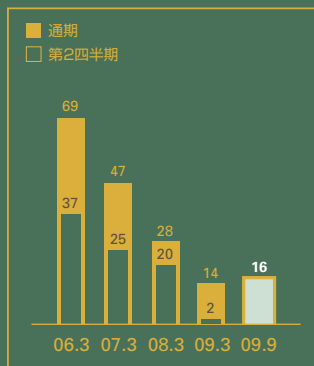
売上高
単位：億円



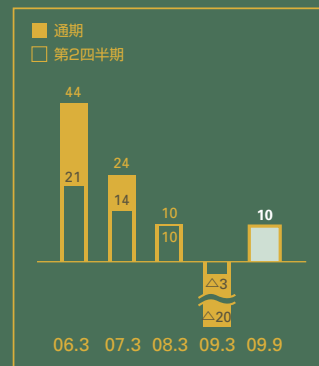
営業利益・売上高営業利益率
単位：億円 / %



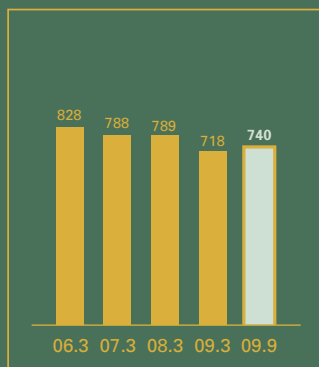
経常利益
単位：億円



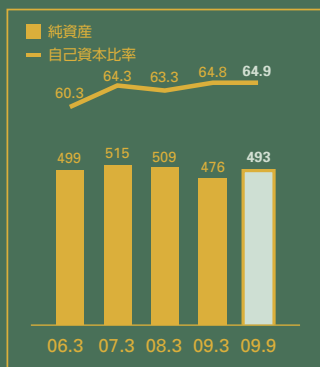
四半期(当期)純利益
単位：億円



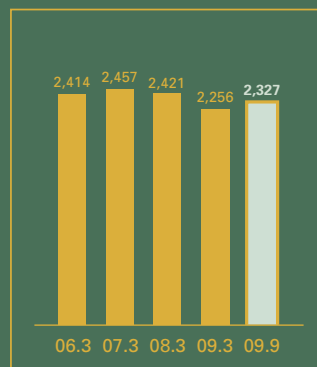
総資産
単位：億円



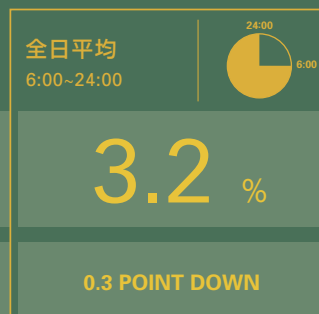
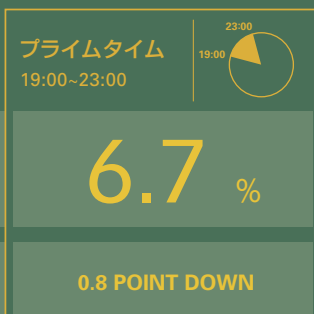
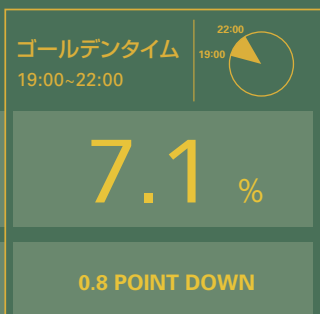
純資産・自己資本比率
単位：億円 / %



1株当たり純資産
単位：円



視聴率



Interim Business Report
To Our Stakeholders

株主の皆様へ



代表取締役会長

菅谷 定彦



代表取締役社長

島田 昌幸

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
2009年度第2四半期連結累計期間(2009.4.1~2009.9.30)の業績を
ご報告するにあたり、皆様の日頃のご支援に心から御礼申し上げます。

当第2四半期の日本経済は、昨年秋以降の急激な落ち込みから一部で回復に向かい、政府は6月に「景気底打ち」を宣言しましたが、生産や輸出の水準は昨年秋の7~8割程度にとどまっております。また、雇用情勢の悪化、個人消費の低迷も続いており、依然として先行きは不透明なままとなっております。

このような状況で、当社グループの連結売上高は522億3千万円(前年同期比12.5%減)、営業利益は15億6千万円(同506.0%増)、経常利益は16億7千7百万円(同486.6%増)となり、当四半期純利益は10億1百万円(前年同期比13億9千6百万円増)となりました。

テレビ広告市場は依然として厳しい状況が続いております。上半期の営業利益は予算を上回る結果となりましたが、放送事業収入は前年実績を大幅に下回る状況が続いております。下半期の広告市場は当社にとって上半期に増して厳しいものになると見ており、通期の連結業績予想は、連結売上高1,043億4千万円、営業利益10億5千8百万円、経常利益12億7千9百万円、当期純利益3億円と、従来の見通しを維持しました。

業況厳しい中、株主の皆様への配当につきましては、中間配当金は1株当たり10円を維持いたしました。期末配当金につきましても1株当たり10円とし、年間配当額は20円を維持する予定であります。

視聴率はゴールデンタイム7.1%(前年同期比0.8ポイント減)、プライムタイム6.7%(同0.8

Interim Business Report
To Our Stakeholders

株主の皆様へ



ポイント減)、全日平均3.2%(同0.3ポイント減)となり、3部門とも前年同期を下回りました。総世帯視聴率がゴールデンタイムで65.6%と前年同期に比べて1.9ポイントも減少していることに加えて、一部の長寿番組の視聴率が伸び悩んだことが影響しました。

業績回復は喫緊の課題であり、これまでになくコストコントロールを重視した経営を進めていますが、ただ身を屈めるだけではなくテレビ局の利益の源泉は「番組」であるのですから、番組制作力の強化がこういう時ほど欠かせません。優良放送番組推進会議*においてテレビ東京の番組がスポンサー企業から高い評価をいただいたことは大変名誉なことです。広告主も視聴率だけではなく番組の質を意識しはじめていることの表れであると思いますが、依然としてテレビ局のビジネスは視聴率を中心に成り立っています。テレビ東京としては業績を向上するには視聴率を獲得することが重要であると認識しつつ、テレビ東京らしい番組の質を維持したうえで番組ごとの採算性を確保し、視聴率獲得とビジネス面を両立させてまいりたいと思っております。視聴者の皆様に信頼され、幅広い支持を得られる良質な番組を作りつつ、業績の回復を目指します。試行錯誤の連続ですが、これこそが「テレビ東京の原点回帰」であり、これまで我々が受け継いできたDNAであると認識しております。

一部の番組では成果が表れてきており、4月スタートの「たけしのニッポンのミカタ!」は前年同期番組に比べて1.0ポイントの増加と新しい視聴者を獲得しました。少しずつ視聴率の上向いてきたアニメでは、来年1月クールからアニプレックスとの共同で「アニメノチカラ」というプロジェクトを立ち上げ、オリジナル・ストーリーのアニメ作品を展開してまいります。テレビ東京はこれまでもアニメ作品と深く関わってきましたが、他の放送局にはない専門組織であるアニメ局を立ち上げ、クリエイターの育成やアニメの開発にも積極的に関わってまいります。

ライセンス事業では、出資案件全般について採算性を重視してコンテンツを厳選する中、今作品が12作目となる劇場版ポケットモンスター『アルセウス 超克の時空へ』がご好評をいただきました。テレビ放送でも依然として人気の高いポケットモンスターは、映画作品としてもこれまでに5,000万人以上のお客様にご覧いただいております。

ライセンスにおいてはリスクを抑えつつ当社の強みが収益につながるよう、マルチユースの推進を図っております。4月スタートの子供向けバラエティ番組『ピラメキーン』は、番組グッズの販売や人気コーナー「ピラメキたいそう」の着うた®の配信など、放送外に幅広く事業展開しています。

テレビ東京はこれまでも知恵を出し、汗を流して、良質な番組をつくることを目標にしてきました。作り手の意思が明確な番組を作る。他局とは一味違うことが画面を通じてすぐわかる番組を作る。そのことが多くの視聴者に愛され、広告主に信頼される番組につながると考えています。それが私たちの目指す足腰の強いタイムテーブルです。

株主の皆様には今後の事業運営にご理解いただくとともに、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

代表取締役会長

菅谷定孝

代表取締役社長

島田昌幸

*優良放送番組推進会議
優良な放送番組を推奨し、番組の質的向上に役立てることを目的として、広告主により組織された団体。会員企業の社員を対象としたアンケート調査を実施し、第1回の「報道番組部門」ではテレビ東京の「ワールド・ビジネスサテライト」が1位に、第2回の「ドキュメンタリー番組部門」では「ガイアの夜明け」が2位になった。

Broadcasting Business

番組編成

2009年度上期の部門別平均視聴率はゴールデンタイム7.1%（前年同期比0.8ポイント減）、プライムタイム6.7%（同0.8ポイント減）、全日平均3.2%（同0.3ポイント減）となり、3部門とも前年同期を下回りました。

地上波デジタル、BSデジタル、110度CSの三波に対応するデジタルテレビの普及に伴って地上波以外の視聴率が伸び、レギュラー番組の視聴率が影響を受ける中、ゴールデンタイムでは「出沒! アド街ック天国」が10.2%（同1.3ポイント増）と健闘しました。

また、経済番組をはじめとしてターゲットを大人に絞り、クオリティの高い番組をラインアップするプライムタイムでは、4月からスタートした「たけしのニッポンのミカタ!」が7.1%と、前年同枠番組に比べて1.0ポイントの増加となり好調なスタートを切りました。

特別番組では「名曲ベストヒット歌謡（13.8%）」、「夏祭りにつぼんの歌（11.4%）」、「元祖! 大食い王決定戦（11.2%）」など、当社が得意とする分野で高視聴率を獲得しました。

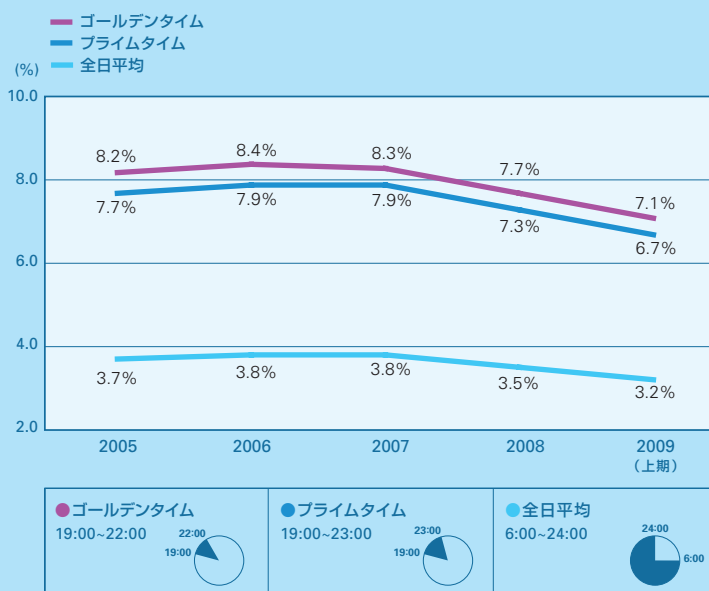
開運! なんでも鑑定団



名曲ベストヒット歌謡



視聴率の推移



高視聴率番組

レギュラー・シリーズの重複を除く

レギュラー番組

	放送日	視聴率 (%)
1	開運! なんでも鑑定団 09.5.19 (火) 20:54~	14.3
2	出沒! アド街ック天国 09.5.9 (土) 21:00~	12.5
3	所さんの学校では教えてくれない そこんトコロ! スペシャル 09.8.21 (金) 20:00~	11.9
4	土曜スペシャル:路線バス乗り継ぎ旅 09.9.5 (土) 19:00~	11.1
5	ペット大集合! ポチたま 09.4.17 (金) 19:00~	10.5

特別番組

	放送日	視聴率 (%)
1	名曲ベストヒット歌謡 09.4.9 (木) 19:57~	13.8
2	第40回夏祭りにつぼんの歌 09.7.3 (金) 19:00~	11.4
3	日曜ビッグバラエティ: 元祖! 大食い王決定戦 最強の名を継ぐ者たち 09.9.27 (日) 19:00~	11.2
4	2009廣済堂レディスゴルフカップ 09.5.31 (日) 16:00~	9.9
5	懐かしの昭和メロディ 09.8.14 (金) 19:00~	9.7

Broadcasting Business

● 事業概況

放送収入のうちタイム収入は、新しいレギュラー番組のほか、「世界卓球2009横浜」、「二夜連続ドラマ 命のバトン」等の大型の特別番組があったものの、昨年度後半から続く深刻な不況の影響と、前年は北京五輪があったことの反動減もあり、230億3千2百万円、前年同期比18.4%の減収となりました。また、スポット収入は、自動車、飲料等のシェアの高い業種が出稿に消極的だったことに加え、東京地区のスポット出稿額が90%を割るなど低迷が続き、106億4千7百万円、前年同期比12.5%の減収となり、タイムCM・スポットCMのトータルでは336億7千9百万円、前年同期比16.6%の減収となりました。一方、BS収入も8億6百万円、前年同期比15.6%の減収となりました。

番組販売収入は、販売先である地方局の営業状況に影響されて番組購入費が減額される厳しい環境に加え、4月改編による「水曜ミステリー9」や「スキバラ」等、売上げが好調だった番組の終了が影響して22億5千8百万円、前年同期比1.6%の減収となりました。

費用面では番組制作費の削減や、売上げ減収に伴う代理店手数料の減少等によって435億6千9百万円、前年同期比14.6%の減少となりました。

以上の結果、放送事業の売上高は448億6千2百万円、前年同期比12.2%の減収となり、営業利益は12億9千2百万円、前年同期比12億5千万円の増益となりました。

Promotional Pictures

1

世界卓球2009横浜

2

出演! アド街ック天国

3

たけしのニッポンのミカタ!

4

第40回夏祭りにっぽんの歌



What's TV?



タイム収入



タイムCM(原則30秒)による収入。タイムCMとは特定の番組を提供するCMのことで、広告主は番組の制作費・電波料を負担します。系列局を通じてCMを放送するネット部門と、当社の放送エリア(1都6県)のみCMを放送するローカル部門に区分されます。

スポット収入



スポットCM(原則15秒)による収入。スポットCMとは番組と番組の間に放送するCMなどのことです。CMの放送は当社の放送エリアのみに限られます。

番組販売



当社の番組を他の放送局に販売すること。系列局以外にも番組を販売しており、系列ネットワークがカバーする地域外でも当社の番組は視聴されています。

License Business

● 事業概況

ソフトライツ収入のうち、一般番組では「モヤモヤさまぁ〜ず2」、「ゴットタン」、「やりすぎコージー」等のDVD販売が好調に推移し、前年同期に比べ増収となりました。アニメ事業では、「NARUTO」、「遊戯王」、「ポケットモンスター」等の主力番組が健闘しましたが、国内外の不況を反映し、前年同期に比べ減収となりました。映画事業では、「パコと魔法の絵本」のDVD販売が堅調でしたが、全体としては不調なタイトルを補いきれず前年同期に比べ減収となりました。ソフトライツ収入全体としては78億9千3百万円、前年同期比10.6%の減収となりました。

イベント収入は「第28期NECカップ囲碁トーナメント」、「ムーミン展」、「夏休みフィギュア名曲コンサート」等が堅調でしたが、前年は上期に開催したフィギュアスケート「JAPAN OPEN」が下期に移ったこともあり、3億2千8百万円、前年同期比51.2%の減収となりました。

以上の結果、ライセンス事業の売上高は82億2千1百万円、前年同期比13.5%の減収となりましたが、一般番組のDVD販売が好調だったことなどから、営業利益は3億4千5百万円、前年同期比17.5%の増益となりました。

Promotional Pictures

1

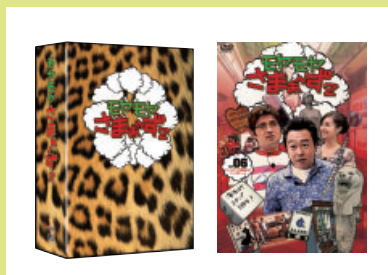
モヤモヤさまぁ〜ず2
DVD

2

ポケットモンスター
ダイヤモンド・パール
©Nintendo・Creatures・GAME FREAK・
TV Tokyo・ShoPro・JR Kikaku ©Pokémon

3

パコと魔法の絵本DVD



©2008「パコと魔法の絵本」製作委員会

What's TV?



ライセンス事業	ソフトライツ部門 ★	<p>放送番組の周辺権利を利用した事業 放送番組のビデオ化や海外販売、玩具の商品化等を通じて収益を上げる事業</p> <p>映画出資事業 映画への出資により、興行収入やビデオ化、放映権の販売等を通じて収益を上げる事業</p> <p>音楽著作物等の管理 音楽著作物の企画、制作、管理に係る事業、保有する映像素材等の販売事業など</p>
	イベント部門 ★	スポーツ競技や文化イベントの主催等により収益を上げる事業



村上龍 × 経済人

「ニュースが伝えないニッポン経済」

「ワールド・ビジネスサテライト」、「ガイアの夜明け」に続く、

第3の経済番組 としてスタート

「カンブリア宮殿」は日本経済新聞の創刊130年記念企画としてスタート。日本経済新聞社からは、経済ニュース番組「ワールド・ビジネスサテライト」、経済ドキュメンタリー番組「ガイアの夜明け」に続く、経済のトーク番組を作りたいという要望がありました。これに対し当社は、これまでの経済トーク番組に多かった、何人かの専門家や評論家が集まって一つのテーマについて「討論する」という形式とは全く異なる経済トーク番組を作りたいと考えました。経済の最前線で戦うビジネスマンから「1対1でじっくり話を聞き」、翌日から仕事の参考になるような話が出る番組にしたいと考え、じっくり話を聞くインタビューに村上龍さんをキャスティング。そして、サブインタビューには視聴者代表として小池栄子さんをキャスティングしました。著作やメールマガジン「JMM」で経済問題に高い関心を示している村上さんには、作家ならではの独自の視点でゲストに斬りこみ、本音や意外な面をじっくり聞

き出していただくことをお願いしました。小池さんには、硬く難解になりがちな経済トークに、素朴な「？」を投げかける視聴者の代表の役割をお願いしました。

「カンブリア宮殿」というユニークな番組タイトルは、ミニコーナーとしてカンブリア紀の生き物を政治家に見立てた風刺劇をやってみてはどうかという村上さんの提案から生まれました。5億5000万年前のカンブリア紀は「生命の大爆発」と呼ばれ、多種多様な新生物が生まれた時代です。そのミニコーナーの話をしている中で、新種の生物を現在活躍している経済人になぞらえるのはどうかという話になりました。番組企画時は、バブル崩壊後の不況を経て、再び経済が立ち直りはじめ、それまでと違う方法で挑戦している人が目立ってきた時期でした。他に「質問人・村上龍」などのタイトル案もありましたが、村上さんと相談し「カンブリア宮殿」になりました。

番組とは
別の面白さを持つ
番組ホームページ

<http://www.tv-tokyo.co.jp/cambria/>

●動画「RYU'S EYE」

収録前日の村上龍さんとの打ち合わせの一部を動画で配信。気になっているツボを放送前に紹介。放送では使わない未公開部分であることも多い。

●「社長の金言」

番組で放送した金言を紹介。「社長の金言」は文庫本にもなりました。

●動画「座右の銘」

番組では放送されないHPオリジナルのコンテンツ。ゲストに座右の銘を色紙に書いてもらっており、なぜその言葉が好きなのかというインタビューも含め紹介しています。



村上龍さんに聞く

Q:カンブリア宮殿で伝えたいメッセージは?

第1回のゲストはトヨタ自動車の張(富士夫・副会長・当時)さんでしたが、その時のミーティングで「トヨタのいいとこばかりを紹介する番組になりますけど、それでいいんですか」という意見がありました。

カンブリア宮殿が始まる時、すでに日本の経済はそんなに良くなかった。そんな状況だから、トヨタにもある程度の弱い部分とか問題の部分があるかもしれない。でも、高度成長時代のように日本中のほとんどの会社が、需要があって成長し、儲かっている時代だったら大企業の問題点をえぐり出すという番組は有効かもしれないけど、今は成功して儲かっている企業の方が少ないんです。そういうときに、いい経営をやっている企業の社長をゲストに呼んで、その企業の問題点を指摘して何のメリットがあるのかということですよ。みんなどうすれば成功できるのか、どうすれば儲かるのかと必死で考えている。そしたら別に目をつぶるわけではないけど、問題点を追究するのではなくて、何で成功したのかを追究することにしたのです。

トヨタの時に決めたのですが、トヨタにしかできないことと、他の企業にも参考になることを分けて伝えようとプロデューサーと話しました。この企業にしかできない部分というのがあるんです。地域性もあるし、事業の規模もある。何をやっているのか、何を売っているのかもあります。だが、普遍的に、どんな人にもどんな企業にも当てはまるような成功要因もあるんですよ。それを伝えようということで、カンブリア宮殿を作っています。

Q:何人もの経営者に会われて、感じることはありますか?

事前にゲストの資料を読むと、この人はすごいと思うところがあるんです。すべての方がそうです。それは「自分はそういうことはできない」という思いなんです。

葉っぱで商売をした「いろどり」という会社の横石さん(代表取締役)という方がいます。横石さんは和食に彩りをそえるツマとして葉っぱを山で採ってきて商売にしようと思われたが、そこまでは誰でも思うかもしれない。ところが、横石さんは2年間料亭に通って高級料理を食べ続けた。どう使われているのかを徹底的に調べるんです。で、それが祟って通風になってしまった。そんなことはできません。そこまでの執念というか、身も蓋もない努力がないと今、成功は難しいんですよ。僕はそうしたことを資料で読むと、「すごいなー」と思う。これは絶対真似できない、と。そうするとゲストに対する基本的なリスペクトが生まれるから、そのリスペクトをベースにして質問をしていきます。

世の中には本当にすごい人がいるんだと毎回思います。僕の本職は小説家だから、「この人がやっているくらいの努力は、自分も小説を書くときに払わなければいけない」と思いますよ。



撮影:木村直軌

Interview with
Ryu Murakami

Q:カンブリア宮殿を放送した3年半の中で、登場する社長の発言の傾向に変化を感じますか?

特にリーマンショックの前後で変化はありましたか?

ゲストが製造業の社長なら「円高になったら困る」とか、そういった発言内容の変化はあります。そういうことよりも、僕がリーマンショック後のゲストとのやりとりで思うのは逆に、変わっていないところなんです。世界経済やマーケットが激変したから、「じゃあ」ってことで会社のポリシーや経営方針が変わるようではダメなんですよ。あれだけのショックは誰も予想できないけど、リーマンショック後も一人勝ちだったり、不況の影響をそれなりにカバーできている企業は、勝てる要因になっていることを前からやっているんです。

いい例がスズキ自動車。スズキは比較的リーマンショックの影響を軽減できているのですが、それは以前からインドのマーケットを開拓し、インド政府も含めたインドの人たちと良い関係を築いてインドで車を造り、インド人にも車を買ってもらっている。だから今回のような激変にもある程度耐えられるし、そこがチャンスになるわけです。あと、製造業でいうとコマツ。コマツは昔からハイブリッド建機を造っていて、人件費は安いけどエネルギーが非常に高い中国でコマツのハイブリッド建機が売れている。リーマンショックの後に「ハイブリッドをやきましょう」といってもぜんぜん間に合わないわけです。

リーマンショック後の大不況みたいなことは誰も予測できないが、そういう予測ではなくて、これからはこういうものに需要があると準備してきた企業は、不況になってもある程度はやっていけている。そういう意味では、リーマンショックの前も後もゲストの発言は共通しています。

リーマンショック後の不況で物が売れないと嘆くような人は、最初からゲストで来ていないですよ。



テレビ東京開局45周年記念 新春ワイド時代劇

柳生武芸帳

2010年1月2日(土)午後4時から一挙7時間放送!

毎年、新年1月2日にお送りする
テレビ東京の新春ワイド時代劇。

来春、2010年の新春ワイド時代劇は、
柳生十兵衛とその父親・宗矩を一躍スターにした、
五味康祐の名作『柳生武芸帳』のドラマ化です。

唯一無二の剣豪・柳生十兵衛には、
初の時代劇主演を務める反町隆史。

十兵衛の父・宗矩は高橋英樹が、そして弟・又十郎は、
時代劇初出演となる速水もこみちが演じます。



物語



戦国の動乱冷めやらぬ三代將軍家光の時代、將軍家劍術指南役となり、大目付に就いた柳生宗矩(高橋英樹)は、裏で息子・十兵衛(反町隆史)、又十郎(速水もこみち)を使い、徳川に反抗的な諸大名の改易、廃絶を画策していた。

一方、反徳川、反柳生の輩たちは、三巻を揃えると、幕府を転覆するに十分な資金と権力を手にすることができる「柳生武芸帳」を奪おうと画策していた。

十兵衛は名門柳生家の枠にはまりきれない異端児にして剣の達人であるが、徳川幕府を滅ぼし、天下を手に入れようとする宿敵・山田浮月斎(松方弘樹)によって左目を失い失意の底に落ちる。それまでは冷徹にただひたすら父の命令を遂行する男であったが、「果たしてこれで良いのか」と疑問を持ち始めるのであった。武芸帳を巡る旅で出会った夕姫(逢沢りな)を慈しむ心と、柳生兵庫介(松平健)をはじめとする剣豪との生死をかけた闘いが、十兵衛の心を変えていく……。

原作 五味康祐「柳生武芸帳(上・下)」(文春文庫刊)

出演 反町 隆史 速水 もこみち 逢沢 りな 山本 太郎 / 松方 弘樹 / 松平 健 / 菊川 怜 高島 礼子 高橋 英樹

見どころ紹介



『新春ワイド時代劇』は「東京ドラマアワード2009」で特別賞を受賞いたしました。正月恒例の長時間時代劇として多くの視聴者に受け入れられ、テレビ東京の看板番組として30年以上続いてきた成果です。32作品目の来年は、柳生武芸帳を巡る騒乱を描いた、五味康祐の未完の傑作「柳生武芸帳」のドラマ化です。

物語は、柳生武芸帳を巡る暗躍を縦軸に、父・宗矩と息子・十兵衛の確執を横軸に据え、世を守る正義とは何か、剣に生きる武芸者とは何か、激動の時代の中でどう生き抜くか……を壮大なスケールで描いています。老若男女、時代劇ファンも唸らせる、殺陣の醍醐味、魅力を随所に織り交ぜた本格時代劇を目指し、キャスト・スタッフが一丸となって撮影に臨みました。ご期待ください!

CSR Information



テレビ東京のCSR活動

テレビ東京ならではの番組を通じたCSR活動
開局45周年の節目に、「命」、「絆」の尊さを描きました。



開局45周年記念キャンペーン「絆」

トンネルの向こうはぼくらの楽園だった ～澤田美喜の子どもたちはいま～

準グランプリ 第5回日本放送文化大賞 準グランプリ



戦後の混乱期、「混血」と呼ばれ差別された子ども達の現在を描く、「命の絆」のドキュメンタリー

第2次世界大戦後の混乱期、日本人の母親と外国人の父親との間に生まれて「混血」と呼ばれ、社会から見放され、差別された子ども達がいました。彼らを一手に引き取り育てた一人の女性、澤田美喜さんが1948年に設立した「混血」の子どものための孤児院が「エリザベス・サンダースホーム」です。

「混血孤児」だった彼らは現在、日本、アメリカ、ブラジルに散らばり、暮らしています。日本で飲食店を経営している者、50代後半で職を失いアルバイトで生計を立てている者、アメリカで実業家として成功した者、ブラジルに渡り農園を経営、現在癌を患い闘病生活をしている者。様々な境遇ですが、今も強く、固い「絆」で結ばれています。「僕達の絆は、結ぼうと思ってできたものではない。もともと僕達の中にあるものなんだ。その気持ちの芯にママ（澤田さん）から受けた“無償の愛”がマグマのように存在しているんだ。ママが逝って改めてそのことに気がついた……。」

番組はホームの卒業生達の“今”を描くドキュメンタリーです。卒業生達は、戦後をどう生き、差別と闘い、自分の道を切り拓いてきたのか？「家族とは何か?」、「親とは何か?」、そして「仲間とは何か?」……。家族の絆が希薄となった今だからこそ、澤田さんの無償の愛を受けて誕生した彼らの“絆”を番組は追いました。



番組案内人:土屋アンナ
エリザベス・サンダースホーム内にて
当時の話を聞く



撮影:影山光洋



開局45周年記念ドラマスペシャル

春さらば ～おばあちゃん 天国に財布はいらないよ～

優秀賞 2009年日本民間放送連盟賞 番組部門 テレビドラマ 優秀賞

優秀賞 第26回ATP賞テレビグランプリ2009 ドラマ部門 優秀賞



詐欺という切り口で介護社会の抱える問題を笑いと悲哀で表現し、介護問題への警鐘を鳴らしつつ、「人間の絆」を問う作品

誰もが経験するであろう介護を舞台に、微笑みのホームヘルパーと一筋縄ではいかないたたかな老人達とのたたかきにも似たやりとりを通じて、老人介護の問題と人間の絆のむろさとすばらしさを問いました。



開局45周年記念ドラマスペシャル

白旗の少女

忘れてしまいたい真実を忘れちゃいけないと語った比嘉富子さんの思いを真摯に受け止め、多くの人に伝えたいと願った「命の物語」

太平洋戦争末期の沖縄。6歳の富子（八木優希）は家族とはぐれ、激戦の中をただ一人さまよっていた。

生きる気力を失いかけていた少女が両手足のない老人（菅原文太）と老婦人（倍賞千恵子）に偶然めぐりあい、生きる尊さを諭され、授けられた白旗を手に一人で米軍に投降する。

奇跡的に命を取り留め、戦渦を一人で生き抜いた少女の真実の物語。

戦争を知らない世代へ、平和の大切さ、生き続けることの尊さを伝えたいと願いました。





Financial Data

財務データ (2010年3月期 第2四半期決算)

連結業績のご報告

(第2四半期: 2009年4月1日から2009年9月30日まで)

四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位: 百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2009年 9月30日現在	2008年 9月30日現在	2009年 3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	44,099	41,394	42,082
固定資産	29,935	31,458	29,773
有形固定資産	15,748	15,693	16,300
無形固定資産	1,134	1,093	1,201
投資その他の資産	13,052	14,671	12,270
資産合計	74,034	72,852	71,855
(負債の部)			
流動負債	15,243	19,249	19,805
固定負債	9,479	3,444	4,395
負債合計	24,723	22,693	24,200
(純資産の部)			
株主資本	48,205	49,227	47,403
資本金	8,910	8,910	8,910
資本剰余金	8,684	8,684	8,684
利益剰余金	30,611	31,633	29,809
自己株式	△1	△1	△1
評価・換算差額等	△149	△90	△824
少数株主持分	1,255	1,021	1,076
純資産合計	49,311	50,158	47,654
負債純資産合計	74,034	72,852	71,855

四半期連結損益計算書 (要約)

(単位: 百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2009年4月1日~ 2009年9月30日	2008年4月1日~ 2008年9月30日	2008年4月1日~ 2009年3月31日
売上高	52,230	59,718	119,759
売上原価	38,018	44,587	88,605
売上総利益	14,212	15,131	31,153
販売費及び一般管理費	12,651	14,873	29,824
営業利益	1,560	257	1,328
営業外収益	187	166	352
営業外費用	71	138	261
経常利益	1,677	285	1,418
特別利益	—	8	9
特別損失	27	388	740
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,650	△93	687
法人税、住民税及び事業税	376	637	883
法人税等調整額	75	△425	1,692
少数株主利益	196	88	143
四半期(当期)純利益	1,001	△394	△2,032

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位: 百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2009年4月1日~ 2009年9月30日	2008年4月1日~ 2008年9月30日	2008年4月1日~ 2009年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,399	281	6,210
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,346	△1,973	△3,057
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,950	△1,034	△2,000
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△3	△9
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	5,007	△2,729	1,143
現金及び現金同等物の期首残高	9,770	8,627	8,627
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	14,777	5,897	9,770

単体業績のご報告

(第2四半期: 2009年4月1日から2009年9月30日まで)

四半期貸借対照表 (要約)

(単位: 百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2009年 9月30日現在	2008年 9月30日現在	2009年 3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	41,253	38,593	39,360
固定資産	29,491	30,852	28,692
有形固定資産	14,872	15,193	15,490
無形固定資産	722	1,028	814
投資その他の資産	13,896	14,631	12,387
資産合計	70,744	69,446	68,052
(負債の部)			
流動負債	19,422	22,933	23,705
固定負債	8,378	2,707	3,337
負債合計	27,800	25,641	27,042
(純資産の部)			
株主資本	43,049	43,877	41,783
資本金	8,910	8,910	8,910
資本剰余金	8,684	8,684	8,684
利益剰余金	25,456	26,283	24,189
自己株式	△1	△1	△1
評価・換算差額等	△106	△72	△773
純資産合計	42,943	43,804	41,010
負債純資産合計	70,744	69,446	68,052

四半期損益計算書 (要約)

(単位: 百万円)

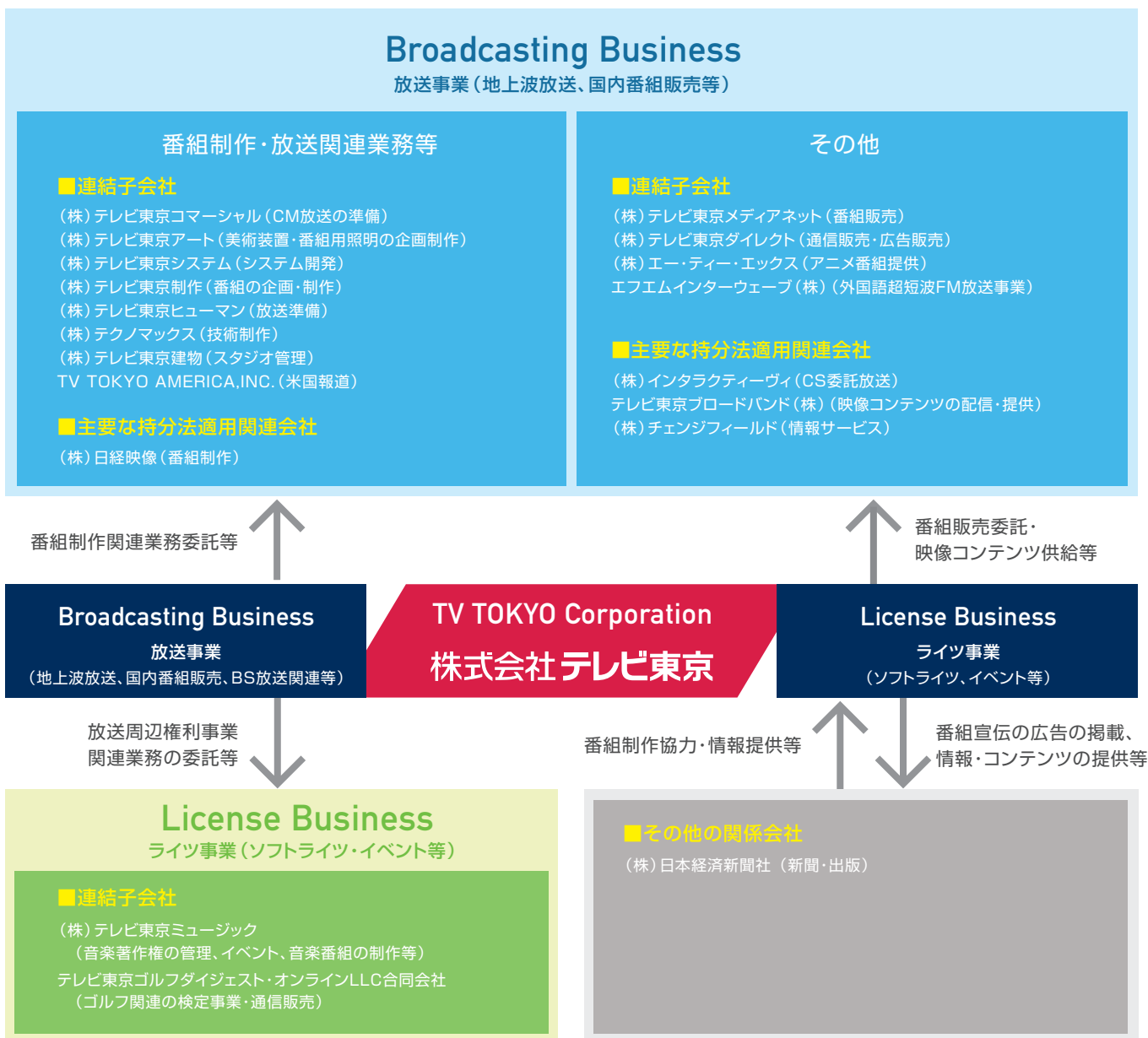
	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2009年4月1日~ 2009年9月30日	2008年4月1日~ 2008年9月30日	2008年4月1日~ 2009年3月31日
売上高	45,743	53,535	107,520
売上原価	32,732	40,045	78,947
売上総利益	13,011	13,490	28,572
販売費及び一般管理費	12,361	14,675	29,312
営業利益	649	△1,185	△740
営業外収益	921	771	962
営業外費用	68	124	130
経常利益	1,502	△537	91
特別利益	—	8	9
特別損失	25	376	806
税引前四半期(当期)純利益	1,477	△905	△704
法人税、住民税及び事業税	4	36	40
法人税等調整額	—	△403	1,661
四半期(当期)純利益	1,472	△538	△2,406

Corporate Information



会社情報 (2009年9月30日現在)

事業系統図



会社紹介



株式会社チェンジフィールド

(株)チェンジフィールドは、顧客の共有に関するビジネスモデル特許を更に活かすために特許所有者であるインターナショナルビジネスリンクとビジネス向けテレビコンテンツに定評のあるテレビ東京が2009年4月に設立した会社です。これからのビジネスは、魅力ある商品・サービスだけでなく、価値ある顧客創り、顧客獲得の仕組みが不可欠です。共有の概念を進化させ、企業連携による顧客政策を可能にするサービスを提供し、新しい市場を開拓していきます。

会社概要

会社名	株式会社チェンジフィールド
代表者	妹尾 八郎
所在地	東京都港区虎ノ門2-7-16 ビュロー虎ノ門
設立年月日	2009年4月10日
主な事業内容	会員組織共有型携帯サイト「ここワン」の運営及び販売、各種ソフトウェアの企画、制作、複製及び販売並びにこれらソフトウェアによる通信提供サービス等
株主構成	株式会社インターナショナルビジネスリンク 株式会社テレビ東京



Corporate Information

会社情報 (2009年9月30日現在)

会社の概要

会社名 株式会社 テレビ東京
(TV TOKYO Corporation)

本店所在地 〒105-8012
東京都港区虎ノ門4-3-12

URL www.tv-tokyo.co.jp

開局 1964年4月12日

呼出符号 JOTX-DTV(デジタル7チャンネル)
JOTX-TV(アナログ12チャンネル)

資本金 89億1,095万円

従業員数 連結1,360名、単体709名

主な事業所

本社・スタジオ(東京都港区)
天王洲スタジオ(東京都品川区)

支社・支局

関西支社 / 名古屋支社 / ニューヨーク支局 /
ワシントン支局 / ロンドン支局 / モスクワ支局 /
ソウル支局 / 北京支局 / 上海支局

役員

代表取締役会長 菅谷 定彦

代表取締役社長 島田 昌幸

専務取締役 野村 尚宏 経理担当

常務取締役 犬飼 正 技術局、情報システム局、コンプライアンス統括局担当
菊池 悟 営業局、ネットワーク局担当 兼 BS業務推進本部長
藤延 直道 編成局、制作局、ドラマ制作室、報道局、スポーツ局担当
兼 BS業務推進本部長補佐

取締役 張替 正美 秘書室、総務局、人事部担当 兼 労務担当
高島 政明 経理担当補佐 兼 内部統制担当
辻 幹男 コンテンツ事業局、デジタル事業推進局、アニメ局、
コンテンツ管理センター担当

斎藤 史郎 [株式会社日本経済新聞社 専務取締役]
大橋 洋治 [全日本空輸株式会社 取締役会長]

常勤監査役 奥川 元

監査役 三森 和彦 [株式会社日本経済新聞社 顧問]
荒木 浩 [東京電力株式会社 顧問]
中地 宏 [監査法人ナカチ 会長・代表社員]

上席執行役員 佐々木 彰 ドラマ制作担当統括プロデューサー
今泉 至明 特命事項担当
岡崎 守恭 ネットワーク局長
三宅 誠一 経営戦略局長 兼 関連企業統括室長
田村 明彦 アニメ局長 兼 営業局担当補佐

執行役員 和知 道章 コンテンツ事業担当統括プロデューサー
石川 雅一 放送番組審議会事務局長 兼 監査役会事務局長
前田 博司 技術局長
高原 寛司 新規事業担当統括プロデューサー

(注) 1. 取締役 斎藤史郎氏、取締役 大橋洋治氏は社外取締役です。
2. 監査役 三森和彦氏、監査役 荒木浩氏は社外監査役です。

TXNネットワーク

TXNネットワークは、テレビ東京をキー局として系列を組み、ネットワークを構築しています。
6局で構成された効率的なネットワークは、全国視聴可能世帯の67.5%をカバーしています。

テレビ大阪株式会社
〒540-8519 大阪市中央区大手前1-2-18
www.tv-osaka.co.jp

テレビ愛知株式会社
〒460-8325 名古屋市中区大須2-4-8
www.tv-aichi.co.jp

テレビせとうち株式会社
〒700-8677 岡山市北区柳町2-1-1
www.webtsc.com

株式会社テレビ北海道
〒060-8517 札幌市中央区大通東6-12-4
www.tv-hokkaido.co.jp

株式会社TVQ九州放送
〒812-8570 福岡市博多区住吉2-3-1
www.tvq.co.jp

TXN Network



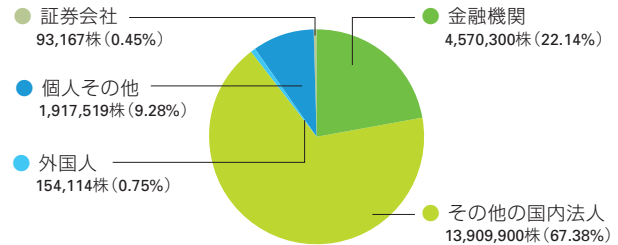
Stock Information

株式情報 (2009年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	82,580,000株
発行済株式総数	20,645,000株
株主数	5,259名
単元株式数	100株

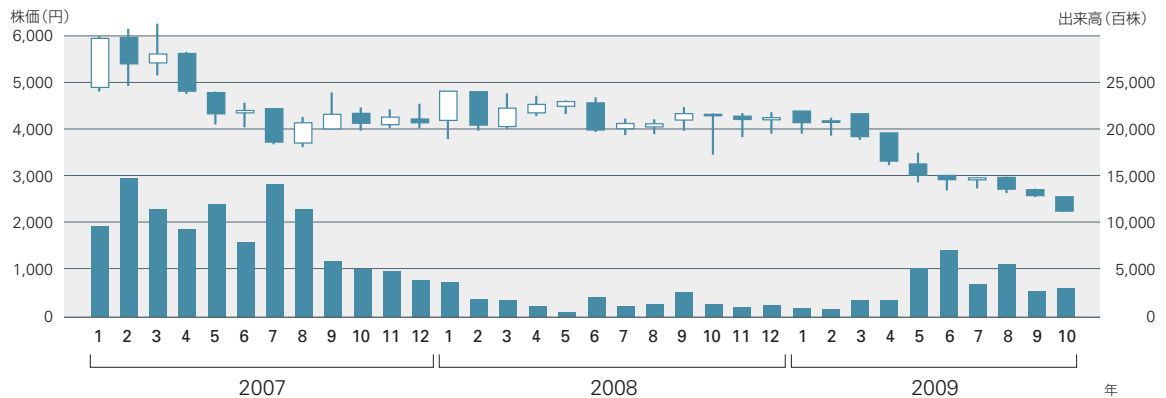
所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(株)	所有比率(%)
株式会社日本経済新聞社	6,881,950	33.33
新日本観光株式会社	2,065,000	10.00
日本生命保険相互会社	1,036,150	5.02
株式会社三菱東京UFJ銀行	984,300	4.77
株式会社みずほ銀行	600,040	2.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	590,500	2.86
東レ株式会社	518,050	2.51
株式会社毎日放送	518,050	2.51
三井物産株式会社	518,050	2.51
テレビ東京社員持株会	350,040	1.70

株価と出来高の推移



(注) 株価は東京証券取引所における各月の始値、高値、安値、終値を示しています。出来高は月の出来高の合計を示しています。

株主優待のお知らせ

株主の皆様にご理解いただくために、公開番組へ抽選でご招待しています。

毎年3月31日現在の所有株式
100株以上の株主様に対し



当社公開番組「夏祭りにっぽんの歌」に抽選でご招待

毎年9月30日現在の所有株式
100株以上の株主様に対し



当社公開番組「年忘れにっぽんの歌」に抽選でご招待

Web Information Shareholder Information



ホームページのご案内／株主メモ

ホームページのご案内



www.tv-tokyo.co.jp

番組情報をはじめ、当社が出資している映画・イベント情報など様々な情報をご覧いただけます。



www.tv-tokyo.co.jp/kaisha/ir

IR情報のページでは、毎月の売上実績、有価証券報告書などの各種報告書を掲載しています。
四半期ごとの決算説明会の模様を動画配信しています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催（議決権の基準日は毎年3月31日）
剰余金の配当	株主総会の決議により、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
中間配当	中間配当を実施する場合は、取締役会の決議により、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払い、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

外国人等の株主名簿への記載制限

放送法に関連して、当社定款には次の規定があります。

【定款第11条】
当社は、次の各号に掲げる者（以下「外国人等」という。）のうち、第1号から第3号までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合と、これらの者により第4号に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、当社の議決権の5分の1以上を占めることとなるときは、放送法第52条の8第1項及び第2項の規定に従い、外国人等の取得した株式について、株主名簿に記載または記録することを拒むことができる。

(1) 日本の国籍を有しない人
(2) 外国政府またはその代表者
(3) 外国の法人または団体
(4) 前3号に掲げる者により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人または団体

株主の皆様の声をお聞かせください

上記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。
ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL: info@e-kabunushi.com

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9411

いいかぶ 検索 Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールにより URL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。

お問い合わせ先
株式会社テレビ東京 総務局総務部
〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 Tel.(代表) 03-5470-7777